

分子科学研究所における社会連携への挑戦

本研究所は、平成31年4月に所長のリーダーシップのもと原則運営費交付金を投じず外部資金によって研究を遂行していく社会連携研究部門を立ちあげました。本部門を構成している平等研究グループは、複数の民間機関等外部機関からの会費により運営するオープンイノベーションの拠点である「小型集積レーザーコンソーシアム: Tiny Integrated Laser consortium、以下TILAコンソーシアム」の支援を受け、レーザー加工・計測やレーザー加速など先端的な固体レーザーを軸とした光科学の研究開発を対象として産学官の共同研究を開始しました。

研究活動を活発化すべく設置後直ぐの5月にTILAコンソーシアムの総会(会員17社出席)を開催し、運営委員会委員を選出して今後の進め方を活発に議論してきました。さらに6月には文部科学省科学技術・学術政策局量子研究推進室長ほか研究所内外の関係者総勢115名にご参加いただき、社会連携研究部門・TILAコンソーシアムの発足式を挙行し力強く船出したところです。

本研究所の産学連携の大きな特徴の一つはコンソーシアムを構成している企業のなかに金融機関が、さらに次年度からは地方自治体加わる予定であり、「産」「学」「官」「金」連携の形が整うことにあります。このことは次に掲げるTILAコンソーシアムのコンセプト・狙いを推し進めるうえで大きな援軍となっています。

- ①本研究所のシーズを、コンソーシアム会員企業や地域など社会のニーズ・技術・経験知に基づいて組織的に展開
- ②基盤技術開発、応用技術開発とシステム化を会員と共に推進→市場に受け

入れられる「キラアプリ」の創出→市場への展開による社会実装など、バリューチェーン形成までを含めたイノベーションへの推進

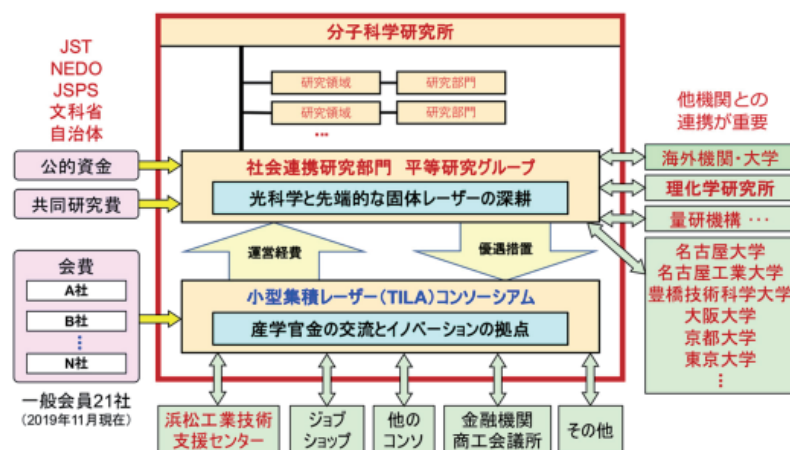
③会員間の交流・情報交換(オープン)と、共同研究や知財ライセンスの供与(クローズ)による社会貢献

④人材の育成(社会人の受入・再教育、産学交えた人材流動化の促進)

本研究所における社会連携(新たな視点での産学連携)については、今まさにスタートに就いたところです。今後機構の産学連携室と緊密に連絡をとりながら研究環境整備等多くの課題を克服し、前進していけるよう全員でしっかりと支えていく所存です。

(福井 豊 記)

TILAコンソーシアムの構成



TILAコンソーシアム発足式

2019年6月19日
岡崎コンファレンスセンター



出席者：文科省、JST、NEDO、愛知県、岡崎市、名古屋市長、幸田町、大学、研究所、企業、岡崎商工会議所、岡崎信用金庫、他